

## 山縣記念財団からのお知らせ

当財団は、1940年（昭和15年）6月3日、辰馬汽船（のちに新日本汽船、山下新日本汽船、ナビックス・ラインを経て商船三井となる）の社長であった山縣勝見によって、「財団法人 辰馬海事記念財団」として設立されました。その後呼称変更により、辰馬海事文化研究所、海事文化研究所そして1964年（昭和39年）「山縣記念財団」となりました。また、「新公益法人制度改革」の施策の中で、2012年（平成24年）4月1日からは、内閣府から認可を受け、「一般財団法人 山縣記念財団」として、わが国の海事交通文化の発展に貢献するために、次の3つの事業を柱として、活動しております。

1. 学術研究誌『海事交通研究』（年報）及び海事交通文化の研究及び普及・発展に資する出版物の刊行と関係先への送付
2. 海事交通文化の研究及び普及・発展に貢献された方々への「山縣勝見賞」（著作賞、論文賞、功労賞、特別賞）の授与
3. 海事交通文化の研究及び普及・発展に貢献する事業への助成・協力

つきましては、これら3つの事業について、2017年度分を公募することになりましたので、次ページ以降をご参照の上、応募をお待ちしております。

いずれにつきましても、申請書などの送付先、問合せ先は下記の通りです。  
(申請書のExcel / Wordフォームが必要な方は、メールにてご連絡下さい。)

### 【申請書などの送付先、問合せ先】

一般財団法人 山縣記念財団

〒104-0032 東京都中央区八丁堀3-10-3 正和ビル5F

TEL : 03-3552-6310 FAX : 03-3552-6311

E-mail: zaidan@yamagata.email.ne.jp

ホームページ : <http://www.ymf.or.jp/>

## 1-1. 『海事交通研究』第66集への掲載論文募集のご案内

当財団は、『海事交通研究』を1965年（昭和40年）11月に創刊し、海運とその周辺分野に関する最新の研究成果を発表して参りました。

2017年11月発行予定の第66集につきましても、以下要領にて掲載論文の募集を致しますので、奮ってご応募下さいますようお願い申し上げます。

尚、本件に関する最新情報については、当財団ホームページでご確認下さい。

・・・・・・・・募集要領・・・・・・・・

1. 募集対象分野 : 海運、物流、港湾、造船、海上保険及びその周辺分野をテーマとする論文  
(1) 「指定テーマ」:
  - ①日本にとって「海運」とは何か？  
(海運界からだけでなく、荷主や金融機関や他産業の皆様からもご応募下さい。)
  - ②神戸港・大阪港 開港150年
  - ③海運業界の環境対応  
(a. 船舶のCO<sub>2</sub> NO<sub>x</sub> SO<sub>x</sub>規制問題、b. バラスト水問題、c. 省エネ船など)
2. 応募資格者 : どなたでも応募出来ます。
3. 応募原稿 : 未発表のもので、原則日本語としますが、相談に応じます。共著も可。
4. 容量 : A4版縦置き横書き（40字×40行）で10ページ（含・目次・図表・注等）を目安としますが、最大12ページまでを厳守して下さい。
5. 応募・審査手順:
  - (1) 以下につき、ご了承の上、ご投稿をお願いします。
    - ①二重投稿・剽窃・自己剽窃とみなされる論文の投稿は不可。
    - ②著書や新聞等の文献から引用した場合及び発想を転用した場合は、出典（著者名・タイトル・発行所名・発行年月等）を明記する。但し、ホームページ上の資料を利用した場合は、URLとアクセスした日付を明記する。
  - (2) 論文執筆の申請をされる方は「年報掲載論文等執筆申請書」（以下「申請書」という）を2017年1月5日（木）～3月31日（金）の間に、メール・郵便又はFAXによりお送り下さい。（本誌巻末の「申請書」書式を切取線から切り取り、ご使用下さい。申請書のWordフォームがお入用の方はご連絡下さい。）
  - (3) 当財団の「年報掲載作品編集委員会」が提出された申請書を審査し、年報掲載論文の執筆を応諾するかどうかを4月末までにご連絡致します。
  - (4) 原稿は2017年8月31日（木）までに、メールに添付して送るか、USBメモリ等記録媒体によりお送り下さい。

6. 提出論文の年報への掲載に際しては、査読（注）を経て、編集委員会での審議にて決定し、10月下旬頃までにお知らせします。発行は、11月下旬～12月上旬の予定です。

（注）査読は、大学または大学に準じる教育・研究機関において教育・研究の経験のある者、および民間企業等で実務経験のある者の中で、査読対象の論文の研究分野に精通している者によって行い、①新規性・独創性、②有用性、③信頼性・公平性・客観性、④首尾一貫性・課題達成度・具体的提案、⑤読みやすさを評価項目とします。

7. 原稿料：年報に掲載された論文については当財団所定の料率にて原稿料をお支払します。

8. 年報掲載論文執筆申請書・論文の提出先・問合せ先：本誌p.93をご覧ください。

以 上

## 1-2. 『海事交通研究』第66集への掲載文募集のご案内

『海事交通研究』第66集では、論文の他、以下の要領で、「エッセイ」など論文の範疇に当てはまらない文章も募集しますので、奮ってご応募下さい。

・・・・・・・・募集要領・・・・・・・・

1. 募集テーマ：神戸港・大阪港 開港150年

前ページの論文募集でも、今号の「指定テーマ」と致しましたが、論文以外でも、両港に対する思いなどについて書かれたエッセイ風のものも歓迎します。

その他の募集要領は、原則として1-1『海事交通研究』第66集への掲載論文募集のご案内に準じる。但し、「掲載文募集」（論文以外）では、「査読」は行いません。

以 上

## 2. 「2017年山縣勝見賞」 募集のご案内

当財団は、2008年（平成20年）に設立者の名前を冠した「山縣勝見賞」を創設し、国民生活に重要な役割を果たしている海運を中心とする海事交通文化の研究及び普及・発展に貢献された方々を顕彰し、その研究成果を対象として表彰する制度を発足しましたが、この度も「2017年山縣勝見賞」への応募を以下の通り受け付けます。

尚、本件に関する最新情報については、当財団ホームページでご確認下さい。

又、前回の「2016年山縣勝見賞」につきましては、本誌p.99～101に掲載しておりますのでご覧下さい。

・・・・・・・・募集要領・・・・・・・・

1. 募集対象分野 : 海運、物流、港湾、造船、海上保険及びその周辺分野をテーマとする著作（共著も可）、論文並びに業績
2. 募集開始日 : 2017年1月5日（木）
3. 応募締切日 : 2017年3月31日（金）（当日の消印有効）
4. 賞の種類及び対象 :
  - ① 著作賞 海事関係の単著又は共著で、2014年1月1日から2016年12月31日までの間に発表されたもの。（30万円）
  - ② 論文賞 海事関係論文で、上記と同期間に発表されたもの。（20万円）
  - ③ 功労賞 海事交通文化の発展に顕著な業績のあった個人。（20万円）特にその業績の対象期間は問わない。
  - ④ 特別賞 上記三賞に匹敵する功績が認められる個人又は法人（20万円）並びにその事業

尚、既に他の学会又は団体などから受賞している場合でも受賞の資格を有するものとします。

5. 応募手続：応募は、個人・団体の推薦又は自薦によるものとします。  
応募者は、当財団宛所定の推薦/申請書（本誌巻末の書式を切取線から切り取り、ご使用下さい。申請書のExcelフォームがお入用の方はご連絡下さい。）に推薦/申請理由書並びに当該著書・論文コピーを1部添付の上提出して下さい。（著書は後日返却します。）  
推薦/申請書・著書/論文コピー郵送先は、本誌p.93をご覧下さい。

6. 受賞者の発表：受賞者の氏名等は、2017年6月上旬までに当財団のホームページ、その他海事関連のメディアを通じて発表します。

尚、受賞者への贈呈式は2017年7月17日の「海の日」の前後に行います。

以 上

### 3. 2017年度支援・助成申込のご案内

当財団は、海事交通文化の研究及び普及・発展に貢献する事業への支援・助成活動を行って参りましたが、2017年度につきましても以下の通り募集致しますので、ご応募下さい。

尚、本件に関する最新情報については、当財団ホームページでご確認下さい。

又、2016年度の支援・助成先につきましては、本誌p.102～103に掲載しております。

・・・・・・・・募集要領・・・・・・・・

1. 募集対象分野       : 海事交通文化の調査研究、その他海事の発展に貢献し、または貢献しようとする事業への支援・助成
2. 募集開始日         : 2017年1月5日（木）
3. 応募締切日         : 2017年2月28日（火）（当日の消印有効）
4. 申請条件           :
  - (1) 2017年4月から2018年3月までに実施する事業であること
  - (2) 収益を目的とする事業は対象とせず、海事交通文化の振興又は調査研究に関連する事業であること
  - (3) 既の実施している事業で、その実績が一定の評価を得ているもの、又はこれから実施しようとする事業の場合は、当該事業を実施するための実態的な人材・知見が整い、事業目的が明確に示されていること
  - (4) 本助成金を利用して活動した後、本助成金の使途に関する事後報告を速やかに行うこと
5. 申請手続           : 応募者は、当財団宛所定の申請書（本誌巻末の書式を切取線から切り取り、ご使用下さい。申請書のWordフォームがお入用の方はご連絡下さい。又はこれに代え、募金趣意書などを提出して下さい。）  
申請書提出先は、本誌p.93をご覧ください。
6. 審査結果の発表   : 助成審査委員会（2017年3月上旬開催予定）により審査し、理事会（2017年3月下旬開催予定）に答申。結果は、4月上旬までに申請者宛連絡します。

以 上

## 「2016年山縣勝見賞」の結果報告

「2016年山縣勝見賞」の受賞者は次の通り決定し、2016年7月22日、海運クラブ（東京・平河町）にて贈呈式が行われました。受賞者、及び受賞内容につきましては以下の通りです。（受賞者略歴は受賞時点のものです。）

### 記

#### ・著作賞

（株）日本海洋科学著、関根 博 監修

『実践航海術』

（成山堂書店 2015年9月刊）

#### 受賞者概要／略歴

（株）日本海洋科学は、自社開発の操船シミュレータを中心に、船舶の航行安全対策をはじめとする海事コンサルティング、船舶の安全運航に関する検船業務、BTM/BRM訓練や各種操船訓練、ECDIS（電子海図表示装置）訓練などを初めとする海事教育業務など、国内を代表する海や船に関わる海事総合コンサルタントである。2015年創業30周年を迎えたのを機に、現役の船長・航海士を含む社員約40名が分担し、本書を執筆した。

監修者関根博氏は、1976年東京商船大学卒業、日本郵船（株）入社後、航海士、船長、シンガポール法人ジェネラルマネージャー、安全環境グループ長、経営委員、常務経営委員等を経て、現在、日本海洋科学社長、東京海洋大学非常勤講師、神戸大学客員教授等。

#### 受賞理由

本書は、現在の外航船の現場である船橋において、どのようなシステムおよび基準が存在し、それらが船舶の安全運航の達成に向けてどのように運用されているかを、特に実務面を重視しつつトータルにまとめた日本初のテキストである。航海計画に始まり、ブリッジ・チーム・マネジメント、ECDIS、ウェザールーティングなど、船長、航海士が心得るべきこと、実践すべきことを、「暗黙知」などもふくめてグローバルスタンダードな視点から、理論に偏ることなく実務に即して横断的に整理。まさに現役の外航船船長、航海士のバイブル的著書として高く評価できる。

#### ・論文賞

旭 聡史 著

『海上物品運送人の定額賠償制度に関する研究』

（早稲田大学大学院法学研究科 博士学位論文 2014年7月）

#### 受賞者略歴

1999年京都大学法学部卒業。電気機器、医薬品事業会社を経て2007年川崎汽船（株）入社。現在企業法務リスク・コンプライアンス統括グループ公正競争

推進チーム長。2011年早稲田大学大学院法学研究科修士課程修了。2014年早稲田大学大学院法学研究科博士後期課程修了、今回受賞論文により博士（法学）取得。

#### 受賞理由

本論文では、海上物品運送人の損害賠償責任範囲について、定額賠償の規定と言われる商法580条や国際海上物品運送法12条の2の規定との関係性、或いは商法580条と民法416条の関係性について考察するために、ローマ法のレケプトム責任にまで淵源を辿り、更にイギリス、ドイツなどの諸外国の法やハーグ・ウィスビー・ルールを始めとする国際条約の対応する規定を比較・検討する作業を通じ、従来の学説の不備な点を補足した画期的な論文として高く評価したい。

### ・功労賞

#### 井上欣三氏

##### 受賞者略歴

1968年神戸商船大学航海学科卒業、日本郵船（株）入社。神戸商船大学で商船学修士、京都大学で工学博士を取得。神戸商船大学副学長、神戸大学海事科学部学部長等を歴任し、現在、神戸大学名誉教授。

##### 受賞理由

主に、海上交通工学、港湾計画、操船に関する分野において安全評価、安全管理に関する技術開発を中心に多くの業績を残し、日本航海学会優秀論文賞受賞7編、TransNav2007国際会議においてベストペーパー賞、日本船舶海洋工学会関西支部長賞（2009年）、住田正一海事奨励賞（2011年）を受賞。現在は「災害時医療支援船構想」の実現を日本の医療界（医師会、歯科医師会、薬剤師会、看護協会）、透析医療界と連携して取り組んでいる。

### ・特別賞

#### 氷川丸ものがたり製作委員会（代表：かまくら春秋社社長 伊藤玄二郎）製作 長編アニメ映画「氷川丸ものがたり」（2015年8月上映）

##### 受賞者概要／略歴

氷川丸ものがたり製作委員会は、本アニメ映画の製作のために、『氷川丸ものがたり』原作者、伊藤玄二郎氏が中心となって起ち上げた。

代表の伊藤氏は、エッセイスト、編集者。中央大学法学部卒業。1970年（株）かまくら春秋社を設立。ポルトガル国立リスボン工科大学客員教授、早稲田大学客員教授、関東学院大学教授等を経て星槎大学教授。

##### 受賞理由

日本郵船の氷川丸は、米シアトル航路の大型貨客船として1930年竣工し、太平洋戦争中は病院船、戦後は復員船、引揚げ船として、更には再度貨客船として運航し、1960年引退、以後は横浜港山下公園地先に係留され、昭和の歴史の「語り部」として今なおその姿をとどめ、2016年3月には、国の重要文化財

に指定されることになった。

戦後70年、建造後85年に当たる2015年、『氷川丸ものがたり』（伊藤玄二郎著）が発行され、同時に本書をもとに、長編アニメ映画（虫プロダクション制作、監督：大賀俊二）が製作され、全国で公開されたことは、海事振興に大きく寄与し、意義深いものと認められる。

・特別賞

森 隆行 著

『神戸港 昭和の記憶 仕事×ひと×街』

（神戸新聞総合出版センター 2014年11月刊）

受賞者概要／略歴

1975年大阪市立大学商学部卒業、大阪商船三井船舶(株) 入社。大阪支店輸出二課長、広報課長、営業調査室室長代理、AMT freight GmbH (Deutscheland) 社長、(株) 商船三井営業調査室主任研究員等を歴任、東京海洋大学海洋工学部講師、青山学院大学経済学部講師を兼務の後、2006年流通科学大学商学部教授に就任。神戸大学海事科学研究科客員教授、タイ王国マエファルーン大学特別講師を兼務。

受賞理由

昭和30～40年代活気で満ちあふれていた神戸港を活写した本書は、岸壁から沖の停泊船まで頻繁に行き交う舳やタグボート、気性は荒くても人情あふれる男たち、そして街を闊歩する外国人船員など、かつての神戸港のにぎわいを演出したさまざまな仕事に従事した人々を探し出して直接取材し、完成させた。神戸を愛する全ての人々に大きな励ましを送っている書といえる。

以 上



「2016年山縣勝見賞」贈呈式における受賞者記念撮影 2016年7月22日 於海運クラブ

左から 森隆行氏（特別賞）、伊藤玄二郎氏（特別賞）、井上欣三氏（功労賞）、旭聡史氏（論文賞）、関根博氏（著作賞）

## 「2016年度支援・助成先」の報告

2016年度より、当財団補助金の助成先と助成に係わる事業名を下記の通り公表することと致します。

### ・公益社団法人日本海洋少年団連盟

#### 「褒状山縣賞」授与事業

「特に優秀な団員又は卒団後も引続き団員の指導等に当たっている指導者の顕彰、知識の更なる向上とモチベーションの昂揚を図り、人材の確保と海洋少年団活動の更なる活力向上を図ること」を目的に、同連盟第3代会長で、山縣記念財団創設者でもある山縣勝見の名を冠して2010年度創設され、授与式には当財団理事長が出席しています。

#### 「我ら海の子展」事業

1973年以来毎年開催されている「船、海や船で働く人、海の環境保全や景色など」をテーマにした児童絵画コンクールで、未就学児・小学生に加え、2016年度からは中学生も対象に加わり、全国の子供達からの応募10,468点の内から、国土交通大臣賞2作品（中学生の部、小学生以下の部）はじめ、主催者、後援者、個人審査員による特別賞、金賞、銀賞並びに東日本大震災を機に創設された「がんばろう日本賞」の合計60作品に各賞が贈られました。尚、当財団からは「山縣記念財団理事長賞」を贈呈しています。

#### カヌー整備事業

2020年までに海洋少年団会員を1万人とする計画の一環として、インフラ整備を支援するもの

#### ゴムボート・救命胴衣整備事業

同上

### ・東京海洋大学海事普及会

#### （海事普及のための学校等）巡回活動事業

海事・海洋リテラシーの向上を目的とした、学生による各地の学校の巡回・講演活動。2016年度は、山形県の中学・高校生を対象に講演を実施。

### ・三村 治夫（神戸大学海事科学部教授）

近海航路域内に棲息する外来フジツボ幼生の実態調査

### ・塩谷 茂明（神戸大学大学院海事科学研究科教授、海事科学専攻）

海上交通における海難防止用の操船支援システム「シーナビ」構築の研究

### ・寺田 英子（広島市立大学国際学部教授）

国際物流拠点の効率化に関する研究

- ・ 岡田 啓（東京都市大学環境学部環境マネジメント学科准教授）  
国際海運からの温室効果ガス削減に用いる経済的枠組の比較に関する研究事業

以 上



2017年 月 日

一般財団法人 山縣記念財団  
理事長 小林 一夫 殿

## 年報掲載論文等執筆申請書

下記の内容にて『海事交通研究』（年報）2017年第66集に寄稿したく、申請致します。

### 記

1. 執筆者氏名
2. 所属
3. 連絡先

住所：〒 -

TEL: ( ) - FAX: ( ) -

E-mail: @

4. 執筆希望論題（いずれかに○をつけて下さい。）

(1)今号での指定テーマ：

①日本にとって「海運」とは何か？

②神戸港・大阪港 開港150年（論文 / 論文以外 ←どちらかに○をつけて下さい）

③海運業界の環境対応

(2)自由テーマ

5. 執筆の趣旨・概要（300字～500字程度）

以 上



# 山縣勝見賞推薦／申請書

(推薦／申請年月日) 2017年 月 日

一般財団法人 山縣記念財団  
理事長 小林 一夫 殿

賞の種類	①著作賞 ②論文賞 ③功労賞 ④特別賞 (該当分に○をつけて下さい。)			
受賞対象内容	a. 著作(書籍)又は論文名			
	b. 掲載誌・号数 (論文の場合)			
	c. 発行者		d. 発行／発表年月 年 月	
	(フリガナ)		f-1 勤務先(役職)又は職業その他	
	e-1 氏名 (著作・論文の場合、著者)			
	(フリガナ)		f-2 勤務先(役職)又は職業その他	
	e-2 氏名 (著作で、共著者がいる場合)			
	(フリガナ)		f-3 勤務先(役職)又は職業その他	
e-3 氏名 (著作で、共著者がいる場合)				
推薦/申請理由	(別紙又は裏面に記載してください。)			

記載箇所：①はb以外全て、②は全て、③はe,f、④はe,fに加え、対象としたい事項をaに記載して下さい。

添付物：1. 推薦／申請理由書

2. 推薦／申請著作(書籍)\*／論文、他参考資料

※書籍は、本賞の選考後、原則としてご返却いたしますが、当方で書籍に書き込みなどをした場合は、購入させて頂くか、ご寄贈をお願いしたいと思います。ご寄贈が可能な場合は、右の□にチェックを入れて下さい。→→□

上記の通り、山縣勝見賞受賞者を推薦／申請します。

(※推薦／申請(=自薦)のどちらかに○印を付けて下さい。)

氏名 (団体の場合は、団体名・役職・個人名)

住所 〒 -

電話番号 ( ) -

メールアドレス @

勤務先(役職)又は職業

キ  
リ  
ト  
リ



2017年 月 日

一般財団法人 山縣記念財団  
理事長 小林 一夫 殿

(申請者)

住所

氏名 (団体の場合は団体名と代表者名)

## 補助金助成申請書

下記の通り、海事交通文化の調査研究、その他海事の発展に貢献し、または  
貢献しようとする事業への支援・助成を申請致します。

### 記

1. 補助金助成を申請する事業名
2. 補助金の申請額 円
3. 補助金の必要時期 (当財団よりの振込希望時期) : 年 月
4. 事業の目的・申請理由 (出来るだけ詳細に記述して下さい。)

## 5. 本事業（総額）に係わる収支案

（※収入（総収入）として、本補助金申請額及び他の調達方法、支出（総費用）として、具体的用途・金額を記入して下さい。）

収入予定			支出予定		
年月	内容	金額(万円)	年月	内容	金額(万円)
	本補助金				
合 計			合 計		

## 6. 以下の「申請条件」全てについて了承した上で、本件を申請します。

（各項目の□に、了承の場合は☑を入れて下さい。）

- 2017年4月から2018年3月までに実施する事業であること
- 収益を目的とする事業は対象とせず、海事交通文化の振興又は調査研究に関連する事業であること
- 既に実施している事業で、その実績が一定の評価を得ているもの、又はこれから実施しようとする事業の場合は、当該事業を実施するための実態的な人材・知見が整い、事業目的が明確に示されていること
- 振込は貴請求書又は寄附金受入通知（金額、目的、振込口座、名義、振込希望年月日を記載）に対して行うこと
- 本助成金を利用して活動した後、本助成金の用途に関する事後報告を、遅くとも2018年4月末までに行うこと
- 補助金を使い切らなかった場合は、ご申請以外の用途に流用することなく、当財団に差額を返金すること
- 本活動の成果について対外発表する場合は、当財団補助金による活動である旨の記載/言及を行うこと
- （申請者の所属する大学等が会計処理を担当する場合のみ）一般管理費等に充当することなく、申請者の研究等事業に全額充当すること

## 7. その他参考事項

（申請者事業概要についてホームページで公表している場合は、URLをご記入下さい。）

## 8. 本件担当者名・連絡先住所及び電話・E-mailなど

以 上